

## 夢想歌

## 「うたわれるもの」のOP

こども ころ ゆめ いろあ らくが  
子供の頃の夢は 色褪せない落書きで  
おも か すべ えが みらい  
思うまま書き滑らせて 描く未来へとつながる

す わた そら は あお  
澄み渡る空 果てしないほど青く  
むじゃき こころ み ひ  
無邪気な心に 充たされ魅かれてく

じゆう と はね て い  
やがて自由に飛びまわれる 翼を手に入れて  
むく ひとみ もと そら む い  
無垢な瞳は求めてく 空の向こうへ 行きたいな

と ど ねが ひと かな  
止め処ない願いから 一つだけ叶うのなら  
だれ ゆず ゆめ つか おも  
誰にも譲りたくはない 夢を掴みたいと思うよ

こども ころ ゆめ いろあ らくが  
子供の頃の夢は 色褪せない落書きで  
か つづ ねが みらい  
いつまでも描き続けられた 願う未来へとつながる

かね な おと とお き  
鐘が鳴る音 遠くから聞こえてくる  
すなお こころ とど ひび  
素直な心に 届いては響いてる

ひか なないろ か こ えが  
光りは 七色に変わって 弧を描いてゆく  
むく ひとみ もと にじ む い  
無垢な瞳は求めてく 虹の向こうへ 行きたいな

と ど ねが わす  
止め処なく 願うほど 忘れないでいたいこと  
ささ ひと ゆめ み  
支えてくれる人がいて 夢を見ることができるから

こども ころ ゆめ いろあ らくが  
子供の頃の夢は 色褪せない落書きで  
おも か すべ えが みらい  
思うまま書き滑らせて 描く未来へとつながる

じゆう と はね て い  
やがて自由に飛びまわれる 翼を手に入れて  
むく ひとみ もと そら む い  
無垢な瞳は求めてく 空の向こうへ 行きたいな

とど ねが ひと かな  
止め処ない願いから 一つだけ叶うのなら  
だれ ゆず  
誰にも譲りたくはない 夢を掴みたいと思うよ

とど ねが わす  
止め処なく願うほど 忘れないでいたいこと  
ささ ひと ゆめ み  
支えてくれる人がいて 夢を見ることができるから

こども ころ ゆめ いろ あ らく が  
子供の頃の夢は 色褪せない落書きで  
おも か すべ えが みらい  
思うまま書き滑らせて 描く未来へとつながる

こどものころのゆめは いろあせないらくがきで  
子供 頃 夢 色褪 落書

おも うまま かきすべらせて えがく みらいへとつながる  
思 書 滑 描 未来

すみわたるそら はてしないほどあおく  
澄 渡 空 果 青

むじゃきなところに みたされひかれてく  
無邪気 心 充 魅

やがてじゅうにとびまわれる はねをてにいれて  
自由 飛 翼 手 入

むくなひとみはもとめてく そらのむこうへ いきたいな  
無垢 瞳 求 空 向 行

とめどないねがいから ひとつだけかなうのなら  
止 処 願 一 叶

だれにもゆずりたくはない ゆめをつかみたいとおもうよ  
誰 譲 夢 掴 思

こどものころのゆめは いろあせないらくがきで  
子供 頃 夢 色褪 落書

いつまでも かきつづけられた ねがう みらいへとつながる  
描 続 願 未来

かねがなるおととおくから きこえてくる  
鐘 鳴 音 遠 聞

すなおなところに とどいてはひびいてる  
素直 心 届 響

ひかりは なないろにかわって こをえがいてゆく  
光 七色 変 弧 描

むくなひとみはもとめてく にじのむこうへ いきたいな  
無垢 瞳 求 虹 向 行

とめどなく ねがうほど わすれないでいたいこと  
止 処 願 忘

ささえてくれるひとがいて ゆめをみることができるから  
支 人 夢 見

こどものころのゆめは いろあせないらくがきで  
子供 頃 夢 色褪 落書

おも うまま かきすべらせて えがく みらいへとつながる  
思 書 滑 描 未来

やがてじゅうにとびまわれる はねをてにいれて  
自由 飛 翼 手 入

むくなひとみはもとめてく そらのむこうへ いきたいな  
無垢 瞳 求 空 向 行

とめどないねがいから ひとつだけかなうのなら  
止 処 願 一 叶

だれにもゆずりたくはない ゆめをつかみたいとおもうよ  
誰 譲 夢 掴 思

とめどなくねがうほど わすれないでいたいこと  
止 処 願 忘

ささえてくれるひとがいて ゆめをみることができるから  
支 人 夢 見

こどものころのゆめは いろあせないらくがきで  
子供 頃 夢 色褪 落書

おもうままかきすべらせて えがくみらいへとつながる  
思 書 滑 描 未来